

令和3年度事業報告

I 総会及び役員会

1 総会

(1) 令和3年度定時総会（書面による総会）

日時：令和3年6月23日

(2) 令和3年度臨時総会（書面による総会）

日時：令和3年9月27日

2 役員会

(1) 令和3年度第1回理事会

日時：令和3年6月1日

(2) 令和3年度第2回理事会（書面による理事会）

日時：令和3年8月31日

(3) 令和3年度第3回理事会

日時：令和4年3月17日

3 監事監査

令和3年5月31日に令和2年度に係る事業報告、計算書類（貸借対照表及び正味財産増減計算書）及びその附属明細書並びに公益目的支出計画実施報告書についての監事監査を実施した。

なお、監事監査に先立ち公認会計士による会計調査を令和3年5月25日に実施した。

II 一般

1 会員の動き

令和3年度末の会員は、入会預り金会員52会員、会費会員5会員、賛助会員17会員（増減なし。）。

2 団体の組織運営

昨年度に引続き、重複する会員が多い中央畜産会と共通する課題について情報交換を行った。

3 役職員

(1) 役員

令和3年度の役員は、理事12名、監事2名の14名である。

(2) 職員

令和3年度の職員は、管理部5名、事業部12名の計17名（年度末の人員、非常勤参与を含む。）である。

Ⅲ 要請活動等

令和3年度一般予算・税制改正・畜産物価格や関連対策及びT P P等関連対策について、政策に反映できるよう農政推進協議会、日本の畜産ネットワーク等関係団体と連携を取りながら各種の活動を行った。

Ⅳ 肉用牛生産振興のための事業の実施

1 肉用牛経営安定対策補完事業（うち肉用牛生産基盤強化等対策事業）

（27, 289千円）

（1）肉用牛生産基盤強化推進事業（3, 949千円）

高齢化等に対処する肉用牛ヘルパー組織への支援のため、以下の事業を実施した。

① 肉用牛ヘルパー組織等強化推進

肉用牛ヘルパー活動を真に高齢化等に対応した肉用牛ヘルパー組織としての役割と体制強化を図るため、地域での活動実態や課題を踏まえつつ、肉用牛ヘルパー事業の円滑な推進指導を図った。また、自主活動分を含めた全国の肉用牛ヘルパー組合の活動状況を把握するため、令和3年7月1日現在での実態調査を実施した。

② 肉用牛振興推進指導

事業の適正を期するため、3道県の実施主体に現地調査を実施した他、新型コロナ蔓延にともない、5県の実施主体・農協に対し、郵送により事業に係る台帳・証拠書類等(写)の提出を求めて、実施事業の審査を実施した。併せて、5月及び3月にオンライン方式により全国会議し、事業の適正執行に資した。

③ 和牛遺伝資源流出防止周知徹底対策

和牛遺伝資源(精液、受精卵等)の国内活用や海外への流出防止を図るため、精液保存容器にステッカーを貼付することとし、前年度にステッカーを作成・配布したが、今年度も追加要望のあった道県に対し、2,400枚追加作成し、配布した。

（2）地域の特色ある肉用牛振興推進事業（19, 563千円）

地方特定品種全国推進会議をオンライン方式により開催し、コロナ禍における各地方特定品種の現況と課題等について意見交換や情報共有を行った。

（3）一産取り肥育普及・定着支援事業（3, 777千円）

受精卵移植技術を活用した交雑種雌牛の一産取り肥育を推進するため、一産取り肥育飼養管理マニュアルを活用したオンライン研修会を令和4年1月26日に開催した。また、会議に参加できなかった関係者からの要望を踏まえ、当会議動画を当協会のホームページにて公開している。

2 食肉流通改善合理化支援事業（うち国産食肉等新需要創出緊急対策事業）

（11, 270千円）

商品性創出事業において、協議会・検討部会を書面により開催するとともに、日本短角種牛肉の特長等について、帯広畜産大学へ委託し、放牧を組み入れた生産方式の日本短角種と濃厚飼料を主に給与する生産方式の乳用種牛肉の肉質分析を行ったほか、日本短角種牛肉を使用した調理品の栄養分析を行い、これらの結果等をシェフ等関係先へ配布した。

また、レストランのシェフ等による現地視察、産地関係者との意見交換を行うとともに、日本短角種牛肉を使用した調理法による短角牛フェアを開催し実需者等の理解の醸成を図る取組みを実施した結果、産地とレストラン間の新たな取引関係を構築することができた。

実証事業においては、レストランのシェフに日本短角種牛肉を使用した調理法を開発しレシピを提供してもらった取組みを実施したほか、展示商談会（焼肉ビジネスフェア）へ出展し、産地別の日本短角種牛肉等の展示・試食を実施した。

なお、展示商談会では来場した大手食肉取扱業者から青森県の日本短角種産地へ定期的な取引依頼があり、新たな販路の開拓につながった。

3 和牛遺伝資源流出防止対策緊急支援事業（7, 647千円）

公募により選定された、全国2地域の取組主体が和牛遺伝資源の適正管理及び流出防止等を目的とした説明会・研修会を開催するとともに、1取組主体において、適正な人工授精業務が行われているか地域内血統の把握・確認を行うための遺伝子型検査（親子判定）の実施に対し、助成を行った。

また、1取組主体において、全国精液等流通管理システムを利用した和牛精液等の利用状況の確認に要する人工授精証明書等を発行するためのモバイルプリンターを導入し、人工授精業務にかかる利便性の向上を図る取組に対し、助成を行った。

4 和牛経産牛肉の機能性成分等分析事業（19, 314千円）

令和3年9月にオンライン方式により推進委員会・マニュアル検討部会を合同開催し、前年度の進捗状況を踏まえ、事業推進上の課題の整理及び実施方針の確認を行うとともに、和牛経産牛の飼養管理マニュアル骨子案及び普及啓発用DVDの企画構成案について検討等を実施した。

また、和牛経産牛肉の機能性成分の特性把握や慣行肥育和牛肉等との差異を科学的に究明するため、サンプル牛肉の理化学分析等を実施し、分析データを蓄積するとともに、7月に大阪で開催された焼肉ビジネスフェア2021に出展し、和牛経産牛肉の展示・試食等を通じた流通業者・飲食店関係者等への情報提供を実施した。

さらに、和牛経産牛肉の評価向上を図るため、3対照区（4ヵ月、6ヵ月、8ヵ月肥育）に試験牛を設定し、現在も肥育実証試験を継続して実施するとともに、和牛経産牛等の牛肉特性や飼養管理技術の普及啓発を目的としたDVDを作成するため、公募入札により制作業者を選定し、構成シナリオの検討作成、生産現場の撮影等を実施した。

5 和牛肉の新価値観構築事業（20,352千円）

令和3年11月にオンライン方式により和牛肉の新価値観構築推進委員会を開催し、事業内容の説明、事業実施方法の検討、達成目標の確認等を実施した。

また、和牛肉の新たな客観的評価手法の検討のため、牛肉の光学測定値や画像解析データ、理化学分析データ等の収集及び取りまとめを実施した。

6 「肉用牛改良情報活用協議会」と事務局

肉用牛の改良増殖の強化を図るため、(公社)全国和牛登録協会、(一社)日本あか牛登録協会、(一社)日本短角種登録協会、(公社)日本食肉格付協会、(一社)家畜改良事業団、(公社)畜産技術協会、(一社)全国肉用牛振興基金協会を構成員とする「肉用牛改良情報活用協議会」は相互に共同連携し、次の事業を行った。

なお、当協会はこの協議会の事務局を担当している。

(1) 家畜能力等向上強化推進事業（多様な改良情報の収集分析等対策）

(17,276千円)

黒毛和種、褐毛和種及び日本短角種の協力肥育農家の出荷した枝肉格付情報を収集し、当該肥育牛の血統情報を照合・整理して、肉用牛枝肉情報全国データベースとして集計・分析・蓄積した情報を取りまとめ、11月に冊子を製本し、協力肥育農家・畜産関係団体へ配布するとともに、同データベースの普及啓発の通知文を全協力肥育農家へ送付した。

11月及び3月には繁殖性等検討委員会をオンライン方式により開催し、生産性に関する遺伝的能力評価の指標化に向けた検討を行った。

公募により3団体を新たな改良形質（一価不飽和脂肪酸等）を測定するために必要な光学測定器を導入する取組主体として選定し機器の導入に対する経費の助成を行った。また、情報の蓄積・分析の取組の準備を実施した。

(2) 畜産・酪農生産力強化対策事業（うち繁殖性等向上対策）

(16,350千円)

① 新技術を活用した肉用牛の繁殖性の向上（牛群管理情報を利活用するための体制整備）

牛群管理情報を利活用するための体制整備を行うため、肉用牛繁殖性向上検討会を10月にオンライン方式により開催した。

新技術を活用した肉用牛の牛群管理に関する実態調査については新型コロナウイルス感染拡大防止対策の観点から1ヶ所のみ実施した。また、技術交流会についても1ヶ所のみ実施した。

肉用牛繁殖技術シンポジウムについては2月にオンライン方式により開催した。

② 飼養管理技術の高度化（効率的な生産体系の確立に向けた技術支援）

公募により、全国6地域を取組主体として選定した。

繁殖性の向上については、1地域において受胎率の向上等を図る目的で、精液の品質管理検査用装置を導入する取組に対し、助成を行った。

また、子牛の損耗低減対策については、1地域において画像認識AIを活用した監視カメラを設置する取組に対し、助成を行った。

肥育用雌牛等を用いた増頭対策については、3地域で肥育用雌牛等（F1雌牛や更新予定の老齢和牛雌牛）に対して受精卵移植技術を活用して和子牛を生産させるための取組に対し、助成を行った。

7 畜産・酪農収益力強化整備等特別対策事業のうち生産基盤拡大加速化事業(肉用牛) (4,510,825千円)

輸出の拡大に向けた和牛の増産を推進するため畜産クラスター計画に基づき、取組主体の構成員（生産者）が優良な繁殖雌牛を増頭し、輸出に適した和牛肉の増産を図るための次の取組を行った。

取組主体の構成員（生産者）が繁殖雌牛を増頭した場合における増頭実績に応じた奨励金の交付(対象牛は、一定の月齢範囲及び一定要件の育種価を満たすもの)。

・奨励金単価

24.6万円/頭:繁殖雌牛の飼養頭数が期首時点で50頭未満の経営体の場合

17.5万円/頭: 同 50頭以上の経営体の場合

・取組主体数: 45道府県 326主体

(1府1主体は参加したが増頭未達成だった。)

・奨励金 20,157頭

8 繁殖肥育一貫経営等育成支援事業(2,924千円)

① 繁殖肥育一貫経営への円滑な移行対策

1取組主体が交雑種雌牛の導入を実施し、3取組主体が交雑種雌牛への和牛受精卵の移植の取組に対し、助成を行った。当協会が実施する現地調査・指導の実施等については、現地对応可能な地域を含めて検討を行ったが、新型コロナウイルスの感染拡大の影響等を受けて実施見込みが立たなかった。

② 地域内一貫生産への円滑な移行対策

域内一貫生産への円滑な移行対策については、取組主体候補者の公募を実施したが、取組主体候補者の応募がなかった。

③ 人材の育成支援

人材の育成のうち、検討会の開催、技術者養成研修ならびに先進地OJTの研修等については、現地对応可能な地域を含めて検討を行ったが、新型コロナウイルスの感染拡大の影響等を受けて実施見込みが立たなかった。飼料の確保支援については、取組主体候補者の応募がなかったため、今年度の事業費の支出はなかった。

9 持続的生産強化対策事業（畜産経営体生産性向上対策）のうち全国データベース構築事業（155, 113千円）

令和2年度に構築した精液等情報システムをより使い勝手の良いものとするため、システムの改修及び機能の追加を実施した。

また、本システムの利用を推進するため、令和4年3月10日にオンライン方式で全国説明会を開催した。

10 肉用子牛生産者補給金制度運営適正化事業（50, 999千円）

①制度業務運営効率化推進作業部会を令和3年7月29日及び9月2日にオンライン方式にて開催、②都道府県指定協会に対する調査指導等を8協会実施、③経理研修会を令和4年3月16日にオンライン方式により実施、④財務管理システムの機能追加・改善を実施、⑤新アドインシステムの開発を行うとともに、同システムの説明会をオンライン方式により実施、⑥肉用牛免税制度及び補給金制度のアンケート調査を実施、⑦全国の家畜市場の取引実績等の調査を行い、その結果を「家畜市場の概要（令和2年）」として印刷・配布、⑧制度関係規程集、一問一答集、実務マニュアルの改訂版を作成の上、関係者に配布した。

11 家畜市場取引情報収集等事業（1, 231千円）

家畜市場情報の収集・提供システムの運営及び適切な情報の提供を行った。

12 生産者積立金融資事業

令和3年度は、借入の申し込みはなかった。

13 都道府県指定協会運営資金融資事業

令和3年度は、借入の申し込みはなかった。

V 肉用牛生産振興のための協力事業

第57回肉用牛枝肉共励会の開催

関東東北3県の会員で構成する関東東北肉牛肥育協議会からの要請を受けて、第61回農林水産祭参加・第57回肉用牛枝肉共励会（出品数：60頭）を開催した。最優秀賞は福島県の佐藤真也氏で農林水産大臣賞が授与された。

開催日 令和4年2月16日～18日

開催場所 東京都中央卸売市場食肉市場

VI 事業推進活動等

1 ホームページを活用して、補給金制度の普及定着・円滑な運用、関連事業の実施等を通じた肉用牛の繁殖基盤の強化等に関する情報を提供して、事業の効率的な推進を図るとともに、牛肉のPRイベント等への参加により肉用牛についての情報を生産者・消費者等へ発信・提供して肉用牛生産への理解を深めた。

2 肉用牛生産振興関係情報交換会（中央生産団体を対象）及び情報連絡会議（会員及び賛助会員を対象）をオンライン方式により開催し、肉用牛生産の振興や実施事業に関わる情報共有を行った。

（1）肉用牛生産振興関係情報交換会

①第1回 令和3年5月12日（水）

1）協会が実施する事業の概要と推進方策、2）今後の肉用牛の生産振興をめぐる話題等について

②第2回 令和3年7月15日（木）

持続的な畜産物生産のあり方検討会（概要、家畜改良、飼養管理、飼料の生産・利用ほか）等について

③第3回 令和3年9月24日（金）

1）全国肉用牛振興基金協会の令和3年度事業の実施状況、2）農林水産省畜産局関係の令和4年度予算概算要求について

④第4回 令和3年12月2日（木）

1）全国肉用牛振興基金協会の令和3年度事業の進捗状況、2）令和4年度予算概算要求、補正予算等の状況、3）持続可能な肉用牛生産に関連した情報発信（案）について（メール開催）

⑤第5回 令和4年2月3日（木）

1）肉用牛生産関連の令和4年度に向けた予算措置について、
2）持続可能な肉用牛生産関連の動き、3）その他肉用牛生産をめぐる話題について

（2）情報連絡会議

①第1回 令和3年4月23日（金）

令和2年度事業の実施実績と令和3年度事業の実施予定について

②第2回 令和3年9月30日（木）

1）全国肉用牛振興基金協会の令和3年度事業の実施状況について、2）みどりの食料システム戦略、持続的な畜産物生産のあり方検討会の中間とりまとめについて、3）農林水産省畜産局関係の令和4年度予算概算要求について

③第3回 令和4年2月8日（火）

1）令和3年度本会実施事業の実施状況について、2）肉用牛生産関連の令和4年度に向けた予算措置、3）持続可能な肉用牛生産関連の動き、4）その他肉用牛生産をめぐる話題について

3 新規事業の確保

令和4年度事業について、以下のとおり応募し、実施事業として決定された。

(1) 農林水産省事業

持続的生産支援対策事業のうち環境負荷軽減型持続的生産支援推進事業（全国推進型）

(2) J R A畜産振興事業

持続的肉用牛生産関連情報発信事業

4 会員が行う共進会入賞者への褒章の授与

会員が行う各種共進会において入賞された肉用牛生産者に対し、その栄誉を称え賞状及び副賞（楯）を授与した。

申請数	27団体
賞状授与数	46枚
副賞授与数	47個